

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 14 号

平成 15 年 6 月 20 日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 045-912-1960

印刷・発送人 〒285-0844 佐倉市上志津原 34 佐藤れん

電話 043-487-7030

パウロの手紙より（3） 「テサロニケ人への第 1 の手紙」より

1 章 1 節

パウロとシルワノとテモテから、父なる神と主イエス・キリストにあるテサロニケ人たちの教会へ。

恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

1 章 6 節

そして、あなたがたは、多くの艱難の中で、聖霊による喜びをもって御言を受け入れ、わたしたちと主とにならう者となり、こうして、マケドニアとアカヤとにいる信者全体の模範になった。

2 章 14 節

兄弟たちよ。あなたがたは、ユダヤの、キリスト・イエスにある諸教会にならう者となった。すなわち、彼らがユダヤ人たちから苦しめられたと同じように、あなたがたもまた同国人から苦しめられた。

2章19節

実際、私たちの主イエスの来臨に当って、わたしたちの望みと喜びと誇りと冠となるべき者は、あなたがたを外にして、誰があるのだろうか。あなたがたこそ、実に私たちのほまれであり、喜びである。

3章2節

わたしたちの兄弟の中で、キリストの福音における神の同労者テモテをつかわした。それは、あなたがたの信仰を強め、このような患難の中にあって、動揺するものがひとりもないように励ますためであった。あなたがたの知っているとおり、わたしたちは患難に会うように定められているのである。

3章7節

わたしたちはあらゆる苦難と患難との中にありながら、あなたがたの信仰によって慰められた。

3章13節

そして、どうか、わたしたちの主イエスが、そのすべての聖なる者と共にこられるとき、神のみまえに、あなたがたの心を強め、清く、責められるところのない者にして下さるよう。

4章1～6節

最後に、兄弟たちよ。わたしたちは主イエスにあってあなたがたに願いかつ勧める。あなたがたが、どのように歩いて神を喜ばすべきかをわたしたちから学んだように、また、今歩いているとおりに、ますます歩き続けなさい。……神のみこころは、あなたがたが清くなることである。すなわち、不品行を慎み、各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲をほしいままにせず、また、このようなことで兄弟を踏みつけたり、だましたりしてはならない。

4章11～12節

そして、あなたがたに命じておいたように、つとめて落ち着いた生活をし、自分の仕事に身をいれ、手ずから働きなさい。そうすれば、外部の人々に対して品位を保ち、まただれの世話にもならず、生活できるであろう。

4章13～18節

兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。私たちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、

イエスと一緒に導き出して下さるであろう。私たちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人より先になることは、決してないであろう。すなわち、主御自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中で主に会い、こうして、いつも主と共にいるであろう。だから、あなたがたは、これらの言葉をもって互いに慰め合いなさい。

5章10節

キリストがわたしたちのために死なれたのは、さめていても眠っていても、わたしたちが主と共に生きるためである。だから、あなたがたは、今しているように、互いに慰め合い、相互の徳を高めなさい。

5章12～18節

兄弟たちよ。わたしたちは願います。どうか、あなたがたの間で労し、主にあってあなたがたを指導し、かつ訓戒している人々を重んじ、彼らの働きを思って、特に愛し敬いなさい。互いに平和に過ごしなさい。兄弟たちよ。あなたがたにお勧めする。怠惰なものを戒め、小心なものを励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。だれも悪をもって、悪に報いないように心がけ、お互いに、またみんなに対して、いつも善を追い求めなさい。いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。

5章23～24節

どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだを完全に守って、わたし達の主イエス・キリストの来臨のときに、責められるところのない者にして下さるように。あなたがたを召されるかたは真実であるから、このことをして下さるであろう。

ガラテヤ書

第 1 章 1 節

人々からでもなく、人によってでもなく、イエス・キリストと彼を死人の中からよみがえらせた父なる神とによって立てられた使徒パウロ、ならびにわたしと共にいる兄弟たち一同から、ガラテヤの諸教会へ。

1 章 1 3 節

ユダヤ教を信じていた頃の私の行動については、あなたがたはずでよく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。そして、同国人の中でわたしと同年輩の多くのものにまさってユダヤ教に精進し、先祖たちの言い伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった。ところが、母の胎内にある時からわたしを聖別し、み恵みをもって私をお召しになったかたが、異邦人の間に宣べ伝えさせるために、御子をわたしの内に啓示して下さった時、わたしは直ちに、血肉に相談もせず、また先輩の使徒達に会うためにエルサレムにも上らず、アラビヤに出かけて行った。それから再びダマスコに帰った。

その後 3 年たってから、わたしはケパをたずねてエルサレムにのぼり、彼のもとに 15 日間、滞在した。しかし、主の兄弟ヤコブ以外には、ほかのどの使徒にも会わなかった。……その後、私はシリヤとキリキヤの地方に行った。

第 2 章 1 節 ~ 11 節

その後 14 年たってから、私はバルナバと一緒に、テトスをも連れて、再びエルサレムに上った。……彼らは、ペテロが割礼のものへの福音をゆだねられているように、わたしには無割礼の者への福音がゆだねられていることを認め、……かつ私に賜った恵みを知って、柱として重んじられているヤコブとケパとヨハネとは、私とバ

ルナバとに、交わりの手を差し伸べた。そこで、わたしたちは異邦人に行き、彼らは割礼の者に行くことになったのである。……ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面とむかって彼をなじった。というのは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、彼は異邦人と食を共にしていたのに、彼らがきてからは、割礼の者どもを恐れ、しだいに身を引いて離れて行ったからである。